

特集 3 アルツハイマー病の 液性バイオマーカー

2021年に米国でアルツハイマー病に対する疾患修飾薬が承認され、近い将来、我が国においても使用が予想される。従来の臨床症状に基づくアルツハイマー病の診断は、病理学的変化の検出には感度・特異度が不十分であり、疾患修飾薬の使用に際してはバイオマーカーを用いた診断が必須となる。液性バイオマーカーにより、生前に脳内のアミロイド β 沈着、病的タウ蓄積、および神経変性を評価することが可能であり、認知症の診断において今後ますます重要性が増すと考えられる。

キーワード

アルツハイマー病, 脳脊髄液, 血液,
アミロイド β , リン酸化タウ



かす けんさく
春日 健作

新潟大学脳研究所
生命科学リソース研究センター 助教